

☆放課後子ども教室☆～1年を振り返って～

三寒四温を繰り返す、少しずつ近づいてきた春の足音。6年生は小学校を卒業し、中学生へとステップアップ。1～5年生も次の学年に進級していきます。少しの寂しさと、成長を感じるうれしさが行きかう3月です。

2月後半から3月前半にかけては、遊び会議というプログラムを行いました。遊び会議では、何をして遊ぶかを子どもたちが企画し、普段はスタッフがやっている準備やチーム決めなどにもチャレンジします。1年間の活動を通して培われた、集団としてのチカラが試される時。まずはおにごっこ、ボールを使った遊び、リレーといった選択肢の中から自分がやりたい遊びを選び、集まった子どもたちがチームとなり、具体的に何をするか話し合いで決めていきます。学年の違う友だちともコミュニケーションがとれるようになり、お互いに意見やアイデアを出しあってプログラムを企画することができました。ろうやオニや手つなぎオニ、バスケットボール、サッカー、障害物リレーなどみんなで楽しめるゲームが盛りだくさん。担当が終わった子どもたちの表情には、やりきったという安堵と自信が感じられました。

3月後半は毎年恒例『1年間の活動を振り返るありがとうパーティー』を開催しています。またこの季節がやってきたかと思うと、本当に1年はあっという間だと実感します。しかし、特別教室を含む1年分の写真、約1700枚を見返すと、たくさんの思い出がよみがえり、とても長かったようにも感じました。時間の感覚って不思議ですね。これは、またひとつ、良い年を重ねられた証拠だと思っています。

子どもには子どもの世界があります。遊びの中に、ケンカの中に、さまざまな場面で見える子ども同士の関係性。私たち大人は安全管理の面ではスタッフという立場にいますが、子どもの世界に入るときは、ひとりの友だちとして話をします。子どもの世界では、大人の都合や一般論だけでは太刀打ちできません。自分の価値観や経験値をもとに、自分の言葉で伝えなければならない真剣勝負です。結果を見れば間違っている行動でも、なぜそうしたのか、彼らにも言い分があるのです。しかし、その声に耳を傾けることを怠って、結果だけを見てしまうと、子どもたちはそのうち自分の考えや気持ちをうたえらることをあきらめてしまいます。「もういいよ」「どうせ自分が悪いんでしょ?」「なんでいつも自分だけ……」という言葉を書く機会が今年は特に多かったように感じました。人との関わり方をケンカや失敗も含めて、体験的に学んでいくのが子ども時代ならば、そこにとことん付き合えるのが私たち放課後教室スタッフの特権です。子どもたちの声にちゃんと耳を傾け、ときには翻訳家や通訳になり、ときには本気でケンカをし、子どもの世界の近くにいる大人の友だちで居続けようと思います。

4月から放課後子ども教室はシーズン6を迎えます。放課後教室スタート時に1年生だった子どもたちが、最上級生となる日が来るとは感慨深いものがあります。私たちにとっても節目の1年となるでしょう。子どもたちに負けないうっかりと走り切りたいと思います。

